



シルバーいなぎ

第 55 号
平成 26 年 3 月 1 日発行
公益社団法人
稲城市シルバー人材センター
広報委員会

平成 26 年度の事業運営に対する基本的な取り組み

地域社会に役立つセンターを目指して会員一人ひとりの更なる努力を!!

会 長 三 澤 一 彦



ときの経つのは実に早いもので、平成 25 年度もあと残り僅かになってまいりました。

当センターは平成 23 年度に公益社団法人として再スタートをきったところですが、これまでの不況の影響と適正就業（受託事業は発注者からの指揮命令を受けてはいけないこと、従業員との混在作業はいけないこと）などから、契約実績が落ち込み、23 年度は 56 万 7 千円、24 年度は 177 万 6 千円の赤字（収入と支出の差額）となり、また、25 年度は役員や地区長に対する費用弁償額の減額、消耗品等の適正執行など支出の抑制に取り組んでまいりましたが、やはり厳しい決算になるものと憂慮しているところでございます。

このようななか、26 年度の予算編成にあたっては、当然のことながら適正就業などの法令を遵守（コンプライアンス）し、これまで通り「最少の経費で最大の効果」（入るを量りて出ずるを制す）ということを基本に、支出では、極力無駄を省いた真に必要な支出（支出の精査）、収入では、引き続き公共からの補助金の獲得に努め、更に確かで信頼される仕事、サービスの向上を通じ、新規開拓を含めた受注の増進に努めていくこととしています。

また、4 月からは消費税率の値上げとなりますが、お客様には十分ご理解いただき適切に対応してまいります。

一方、会員数は依然として増加に向かっていないことから、会員の新規加入促進にも力

を入れること、また、稲城市からの新規事業を含めた受託や民間からの事業受託をはじめとする就業開拓にも取り組んでまいります。

このためには市民の皆様からセンター事業に対するご理解とご協力をいただくこと、地域社会に役立つセンターであること、お客様に喜んでいただける仕事に心がけること、また、会員ひとり一人が今おかれているセンターの現状を認識し、更なる努力を積み重ねていくことが大切と思っています。

まだまだ寒い日が続きますが、会員の皆様にはくれぐれも安全就業と健康の維持管理に十分ご留意のうえ、センター事業に更なるご協力をお願いいたします。

会員の皆様に大事なお知らせ

●シルバー保険の保険料改定について

すでにお知らせしている通り、平成 26 年度よりシルバー保険の保険内容が一部変更となり、会員が負担する保険料がこれまでの 800 円から 900 円のご負担となります。

4 月 1 日現在会員登録されている方の所定の口座から引き落としをさせていただきますのでご理解願います。

●会員としての在籍と会費納入について

平成 26 年 4 月 1 日現在、会員として在籍されている方は、平成 26 年度分の会費納入義務があります。ご都合で退会をお考えの方は平成 26 年 3 月 31 日までに退会届を提出してください。

希望職種交代要員募集のご案内

この職種は、役員による面接と無償の研修期間があります。研修は交代月の約1カ月前から数日行います（問合せ、詳細は事務局まで）

グループ	人員	就業体制	交代月
第四文化センター	男1名	16:30～22:30	26年5月
第二文化センター	男1名	16:30～22:30	26年5月
中央文化センター	女1名	8:30～17:30 土日祝	26年5月
福祉センター	女1名	土・日	26年6月
ふれんど平尾 受付・清掃	男1名	毎日12:30～21:30 ローテーション	26年6月

※申込み締切日は交代月の2カ月前の末日です

平成25年度 第10回理事会報告《抜粋》

◆平成26年1月27日開催

1) 事業実施状況

①12月末現在会員数

会員数 609名（平均年齢 73.0歳）

男性 435名 女性 174名

②実績累計（平成25年4月～12月）

受託件数 2,368件 就業実人員3,863名

契約金額 191,676千円

（前年同期比 ▽1.2% 基本予算進捗率 75.2%）

2) 規程に基づく報告・決議

3) 部会、委員会活動報告

4) 特記事項（決議・報告・協議検討等）

①シルバー保険料会員負担金の決定

②来年度新規事業の応募状況と対策協議

会員の入退会 （平成25年4月～12月）

地 区	入会	退会
矢野口1、2、3	5	6
押 立	6	3
東長沼1、2	7	6
大 丸1、2	10	7
百 村	2	2
向陽台	10	7
坂 浜	3	2
平 尾1、2	11	7
長 峰	7	2
若葉台	3	1
合 計	64	43



就業グループ紹介

特集シリーズ 第2弾

今回は、《学校管理受付グループ》と《植木グループ》をご紹介します。

※本特集内では、「グループ」を「G」と略称します

学校管理受付G 中学校の安全を守っています！

学校管理受付Gは、稲城市立第一、第二、第三、第四、第五、第六中学校の6校で就業しています。

各校を2人が担当し、曜日または週ごとにローテーションしています。12人全員が男性で、担当時間内はそれぞれ一人で就業しています。就業時間は、月曜日から金曜日の17:00～19:00です。主に校内の見回りを行い、生徒や職員帰宅後の施錠確認までの様々な安全確認を行います。

学校は出入口が複数あり、教室数も多いのですが、そのすべてを消灯し、戸締りし、異状がないかを確認します。



就業終了時には、管理日誌を作成し、機械施錠のセットをします。

学校は階段が多く、広い校

舎内の巡回には、体力が必要です。

また、夜間は暗くなり、足元も危なくなります。

それでも、生徒たちが元気に活動する姿を見ると疲れが吹き飛びます。



安全な働き方に対する取組み

- ①来校者の情報を正確に把握しておく。
- ②階段の昇降は、ゆっくりと行う。
- ③暗い場所の移動時は、足元に十分注意する。
- ④グループ内での引継ぎを確実にし、情報を共有する。



信頼を得るための取組み

- ①学校とのコミュニケーションを密にし、連絡を確実にする。
- ②丁寧な言葉遣いを心掛ける。

植木造園 G 自主研修で腕を磨く技能集団

植木造園 G は、現在 18 人の会員が所属し、技術力を発揮して市内の個人宅、公園、ゴルフ場等より受注した仕事に就業しています。就業日数は季節により変動するようです。

植木 G では、すべてのお客様に満足していただける仕上がりを提供するため、G 内で自主ルールを設け、会員の役割分担、仕事の手順、育成、研修等重要な事を定めています。



会員の育成に関して、最初は C 職として東京しごと財団で 1 カ月間の研修を受講後、約 2 年程度の現場の植木作業を通して

植木の仕事を続けられる身体づくりと仕事の手順、樹種ごとに決められた技法、作業後の清掃といった植木造園 G 員としての体力・基礎知識・技術を習得します。C 職として 2 年経過して内部基準に適合すると B 職になります。



富樫リーダー

富樫リーダーは、現場責任者に就くことができ、現場責任者の仕事を通して技術力とリーダーシップを磨き、3 年程度かけて最上位の A 職を目指します。現場の庭を見て剪定計画をたて、お客様のご要望を確認し、打合せどおりの作業が出来るようになるまで、概ね 5 年程度の実務経験が必要だそうです。大変奥の深い仕事です。



安全な働き方に対する取組み

就業時の安全・技術の向上と仕上りの統制を目指すことを目的に、定期的に自主研修を実施しています(自主研修計画書より)。

平成 26 年 1 月 24 日東長沼にて実施された研修では、1 軒のお宅を 4 軒の現場と想定して 4 人の現場責任者を決めて実施しました。取材できた研修の一部をご紹介します。

●研修担当から全体についての説明・指示



- ①お客様のご要望を説明した
- ②危険箇所、立入禁止場所、作業対象外樹を指示した
- ③全員で柔軟体操を行った

●各班の現場責任者の指示で作業開始



- ①再度、安全に作業を進めるよう指示した
- ②各人に担当する樹木と作業手順を指示した
- ③剪定枝を散乱させないため作業場所の下にブルーシートを敷いた

- ④作業目的に適した脚立を選び、しっかり脚立を安定させ、安全を確認してから登った

●作業者間で相互確認・ベテランの实地指導



- ①作業仲間同士で疑問点を確認していた
- ②ベテラン会員が樹種に適した細かい技術を実地指導していた

- ③高い枝の剪定作業では、時々下から見て具合を確認していた



信頼を得るための取組み

確かな技術力でお客様と緊密なコミュニケーションをとることを心がけています。

- ①事前にお客様のご要望を良く聞く
- ②要望事項を具体的に確認する。必要に応じてこちらから提案する
- ③作業の途中でお客様に確認する
- ④作業終了後の確認で、ご不満があれば追加の作業をする
- ⑤作業後は丁寧に掃除をする

毎週月曜日と木曜日の午前中は
「就業相談日」です
お気軽に相談にお越しください

会員のひろば

入会6年目研修(理念研修)を実施

1月23日、入会6年以上の会員対象の理念研修を振興プラザ4階にて開催しました。

三澤会長の挨拶と事業全般の報告、但木安全管理委員長から事故報告と事故防止策の説明がありました。

●講演：「シニア世代の心と身体づくり」

～心と身体の変化とどう付き合うか～

講師に稲城市役所福祉部高齢福祉課の保健師 森橋真紀さんを迎え、自立した生活ができる「健康寿命」を延伸するための講演とグループ討議、気軽にできる体操をしました。



グループ討議のテーマは

- ①食生活
- ②歯と口の健康
- ③運動（体力維持・向上）
- ④物忘れ・認知症

知症予防の4つのテーマで活発な議論がされ、物忘れ・認知症に関するグループ発表では、思わず頷く人や苦笑する人がいました。

認知症の予防の秘訣は、身体を動かし栄養のあるものを食べ、出来るだけ多くの人と会うことだそうです。

最後に、参加者全員で元気にレインボー体操を行いました。



ボランティア活動に参加しましょう

当SCでは、自分たちの住む地域の安全や美観を保つため、日頃からボランティア活動を続けています。

お気軽にご参加ください。

●多摩川清掃 4月6日（日）

恒例の春の「多摩川清掃」がチラシのとおり行われます。是非多数参加して下さい。

●防犯パトロール車による市内巡回

昨年夏以降、市所有のパトロール車による市内防犯パトロールをボランティアの会員と理事で毎月1回実施しています。4月以降の計画にボランティア参加いただける会員の方は事務局までお申し出ください。

事務局の新職員さんを紹介

SC事務局に、新たに3人の職員さんが平成25年11月より順次着任しました。

園田 八千代さん(嘱託)

中島 玲子さん(臨時)

白谷 明子さん(臨時)です。

これまで勤務していた鈴木さん、松下さん、目代さんが辞められたため、交代職員として加わって頂きました。新任の皆さんには、会員のための様々な業務サービスに携わっていただきます。どうぞよろしくお願い致します。

編 集 後 記

時の流れは速いもので、新年を迎えたと思ったら、もう3月も間近である。

この時期は若者にとっては入試や卒業など出会いと別れの季節でもある。小生にとっては遥か昔のひとコマになってしまったが、懐かしく思い出されるのは「仰げば尊し」の歌である。

近年はあまり歌われないので、調べてみたら「歌詞が文語調で難解である」「教師が児童・生徒に感謝の押しつけだ」「2番の歌詞は立身出世をあおり民主主義的でない」だそうである。ここで自説を言うつもりは毛頭ない。

この歌への出会いは小学校時代に師に倣い一生懸命歌った時からである。今、聴く度に別れの悲喜こもごもの情景が脳裏に映り、この歌の力を改めて感じ感慨深いのである。

一 仰げば尊しわが師の恩
教える庭にもはやくつせ
思えばいと疾しいこの月
今こそ別れめいざやうば

二 互いに睦し日ごろの恩
別る後にもやよ忘るな
身を立て名をあげやうば
今こそ別れめいざやうば

三 朝夕馴れにし学びの窓
蛍のともし火積む白雪
忘る間ぞなきゆくとし月
今こそ別れめいざやうば

おおらかで、包容力を感じさせる旋律が何とも言えないのである。(i)